

船橋県税事務所長賞

船の墓場と税金の使い道

船橋市立芝山中学校

第二学年

樋口 航介

みなさんは、「船の墓場」という言葉を聞いたことがありますか。私が住んでいる千葉県船橋市で、使われなくなった船が海に放置されているというニュースを最近見ました。その場所は「船の墓場」と呼ばれており、古くなって壊れた漁船やボートが何隻も放置されているのです。中には、沈みかけているものもあると知り、私はとても驚きました。

このような放置船は、環境に悪い影響を与えるだけでなく、海を使う人たちにとっても危険です。たとえば、近くで釣りやマリンスポーツをしている人が、沈みかけの船にぶつかってケガをしてしまう可能性もあります。放っておくと、大きな事故につながるかもしれません。

しかし、それらの船を撤去するには、お金がかかります。一隻を引き上げて処分するのに、数百万円もの費用がかかるそうです。そ

して、その多くが私たちの払っている「税金」でまかなわれていると知りました。

私は、なぜ他人が放置した船を、みんなの税金で撤去しなければいけないのか、とても疑問に思いました。持ち主が責任をもつて自分で処理するべきだと思ったからです。しかし調べていくうちに、船の所有者が見つからなかったり、すでに亡くなっていたりするケースも多いと知りました。そうすると、結局は市が対応するしかなくなり、その費用が税金でまかなわれるのです。

税金は、学校の設備や道路の整備、消防や救急の活動、ごみの回収など、私たちの生活を支えるために使われています。だからこそ、無駄に使われることがないように、もっと工夫が必要だと思います。たとえば、放置船を減らすために、船の所有にもっと厳しいルールをつくったり、処分費用の一部を市が補助

してあげる制度にすることも大切だと思います。

この「船の墓場」の問題は、決して他人事ではありません。私たちが安心して海や自然を楽しむためにも、税金の使い道に関心を持ち、正しく使われる社会をつくる必要があります。

今回のことをきっかけに、私は税金についてもっと知りたくなりました。そして、将来は税金をただ払うだけでなく、その使い道にも関心を持てる大人になりたいと思います。